

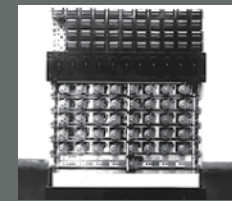
# トラヒックコントロールの始まり

Begining of traffic control

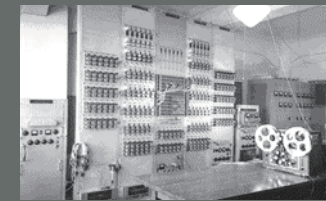
トラヒック理論は交換技術の一環として発展してきたもので、自動交換機によるネットワークが小規模のうちは、理論的な研究にとどまっていた。

1960年の市外自動クロスバ交換機による、全国的な自動即時サービスが拡大するのに伴い、面としての回線網管理が必要となった。1964年には、トラヒック管理実施法が制定され、回線切替や規制方法などの即時網管理の技術が具体化され、これにより全国を一律的に管理する網管理センターが設立されたが、1981年のTCS（トラヒック制御システム）の導入まで、手作業の時代は続いた。

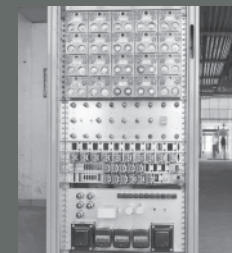
## 初期のトラヒック関連測定器



発着信呼分析器 (1951)  
ステップバイステップ交換機用の  
呼量・呼数測定器



疑似トラヒック装置 (1956)  
電子管による  
ステップバイステップ交換網シミュレータ



トラヒック監視装置 (1959)  
ステップバイステップ交換機用  
トラヒック監視装置



1号Aトラヒック監視装置 (1962)  
クロスバ交換機用トラヒック測定装置

## 全国ネットワークのトラヒックや輻輳を一元で監視制御し、 通信の安定供給を司るネットワークインテグレーション技術

